

広告主名	くら寿司	期間	2020年7月7日 ~ 継続中
施策名	TUNA SCOPE 2020 -くら寿司導入・AIまぐろローンチ-	地域	全国

1. 施策の狙い

コロナによる水産業の危機を、「新しい買付け様式」で乗り越える。

2020年、新型コロナウイルスの拡大により、世界中で人の移動が制限。日本最大級の回転寿司チェーン「くら寿司」は、これまでマグロを仕入れる際、職人が海外に向いて目利きをし、買付けを行ってきたが、**コロナの影響による渡航制限で、従来の職人による買付けが不可能に。**

マグロの供給が危ぶまれ、水産業が危機的な状況に陥るなか、美味しいマグロを生活者に届け続けるため、くら寿司は我々エージェンシー開発のテクノロジーを導入。**新しい買付け様式でコロナを乗り越える、世界初の取組み**にチャレンジした。

2. アプローチ手法

マグロ目利きAI「TUNA SCOPE」導入。史上初のAI遠隔買付けに成功。

開発したのは、マグロ目利き職人の技を受け継いだ品質判定AI「TUNA SCOPE」。習得に10年以上の修行が必要といわれた職人の「暗黙知」を、大量のマグロの尾の断面画像のディープラーニングによって継承し、2019年に完成した。2020年、我々とくら寿司は、TUNA SCOPEを中国・大連にデータ送付。職人に代わって、**AIによる遠隔買付けを実施**。熟練の技をマスターしたAIの目利きにより、数百トンにおよぶ大量のマグロの選別、仕入れに成功した。

さらに、AIが最高品質として認めたマグロを、**新商品「AIまぐろ」としてくら寿司全国461店舗で販売**。結果、**予定数の3倍に及ぶ大ヒットを達成**（20年7月実績）。水産業界のデジタル・トランスフォーメーションによってコロナを乗り越えた取組みとして、**57ヶ国1,500以上のメディア**に取り上げられ、世界中で話題化した。

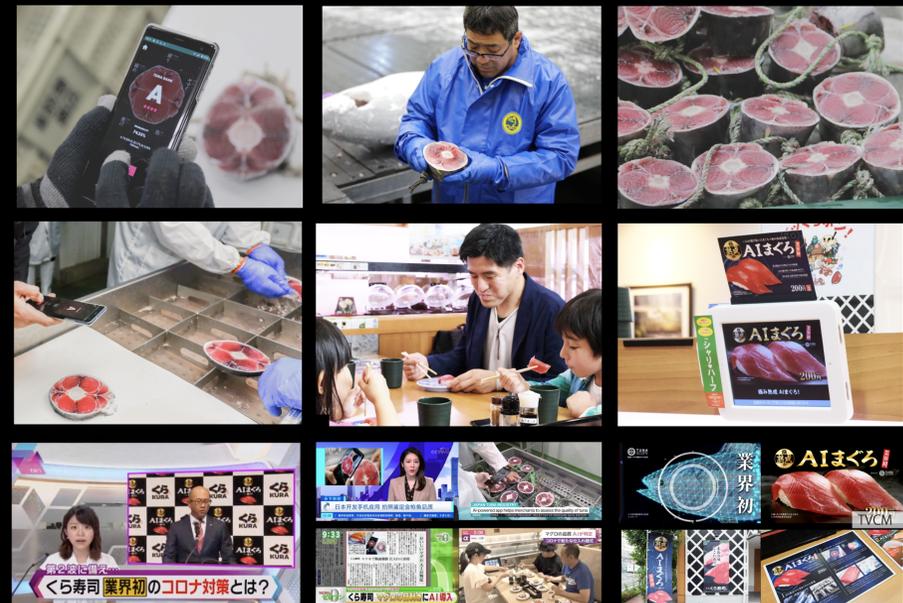
3. イノベティブなポイント

PoCの壁を乗り越え、社会課題を解決し得るビジネスに進展

- 「**後継者問題解決**」「**資源問題解決**」「**コロナの克服**」といった社会的意義に共感した多くの企業の協力のもと、**PoCを乗り越え事業化に成功**。全ての関係者に収益をもたらし、新しい市場を創出。
- 2020年、**水産庁の補助事業に採択**。ニューヨーク・シンガポールなどで「AI認証マグロ」の販売を現在も継続。
- TUNA SCOPEは現在も日本各地の目利き職人の協力のもと、独自のデータベースを蓄積。大量のデータをもとに学習を続け、**AIが日々進化し続ける仕組みを構築**。
- 開発した目利きAIのアルゴリズムは、農業や医療などの**他産業への応用**が可能であり、実証実験等の検討を開始している。



目利きの後継者 AI「TUNA SCOPE」で、美味しいマグロを全ての人に。



TUNA SCOPEは、プロジェクトから「事業」へ進化。

- 「くら寿司」導入、全国461店舗にて「AIまぐろ」を販売。TVCM等ローンチキャンペーンを展開。
- 双日大連翔洋・三崎恵水産・マルミフーズなど、国内外の様々な工場にも導入。
- 水産庁補助事業に採択。ニューヨーク・シンガポールなどで「AI認証マグロ」の販売を継続。

「TUNA SCOPE」が解決する3つの社会課題

1 「目利き」職人の後継者問題を解決

日本の熟練した職人が持つ「目利き」の職能は、10年以上の修行を必要とする大変高度な技術であるが、高齢化の進行に従い、その担い手は全盛期の半数以下に減少し、後継者不足の危機にあった。我々は、職人の勤と経験による「暗黙知」であったこの技術を、ディープラーニングの畳み込み学習を活用してAIが継承。AIの活用方法にクリエイティビティを見出し、職人技をAIに受け継ぐことに成功した。

2 コロナを乗り越える水産流通のトランスフォーメーション

AIによる目利きを活用した買付けは、**コロナ禍の時代の「新しい買付け様式」を提示し**、水産業界のビジネス・トランスフォーメーションの先進的な取り組みとして、世界中から反響を獲得。現在も世界中から問合せを受けている。TUNA SCOPEの普及により、誰もが簡単にマグロの目利きを行うことが可能になることで、**コロナ禍のみならず、今後世界中で安定して美味しいマグロの流通が実現する。**

3 乱獲を招くビジネスの力学を変え、資源問題を解決へ

TUNA SCOPEは、世界中の誰もが簡単にマグロの「目利き」を行うことを可能にし、新しい品質基準をつくる。現在、世界では主に「重さ」によってマグロのトレードが行われ、魚体にダメージを与えて品質を損ねてまで大量の漁獲を行う「乱獲」が横行している。TUNA SCOPEのグローバルな品質基準により、この「量」重視のマグロビジネスの力学を「質」重視へシフトさせ、乱獲を抑制し、資源問題を解決に導くことを目指す。